

日本における潜水漁の存立をめぐって - 海女の加齢と熟練 -

成城大学文芸学部 小島孝夫
kojima@seijo.ac.jp

はじめに

1. 潜水漁調査の概要

1982年4月から9月にかけて、三重県志摩郡大王町畔名（現：志摩市大王町畔名）の海女集団を対象に、潜水漁の存続の背景を明らかにすることを目的とした調査を実施した。

また、その調査が契機となり、当該海女集団に所属していた海女の一人が潜水漁に従事していた37年間の採捕記録を分析する機会を得た。

さらに、今年度より三重県教育委員会による海女習俗調査に参画することになり、志摩地方全域を対象とした潜水漁の実態把握の機会を得た。

1982年に実施した調査は、当該地域において22名の海女集団が存立している背景を、操業方法や採捕技術の分析から明らかにしようとしたものであったが、その分析を行う過程で、当該集団が存立している事由として、当該集団構成員の一日当たりの漁獲額は50歳代を頂点とし、40歳代と60歳代がほぼ同額になっていること、年齢に応じて採捕対象に差異があることが明らかになり、潜水漁の存続理由の一つとして漁獲額に年齢差が反映されにくい生産活動なのではないかという仮説を得た。

その後の調査は、その仮説を当該集団に属する一人の海女の採捕記録を分析することで、加齢と漁獲額との関係を確認しようとした。前者が当該集団の構成員の同年次の漁獲額等を横断的に比較したものであったのに対して、後者は一人の海女の37年間の毎年の漁獲額を縦断的に比較したものであった。後者の作業では、加齢に応じた体力（視力を含む）、知識、技能などの変化が漁獲額にどのように反映されてくるのかを検証していくことになった。

2. 調査地および調査対象集団

調査地 三重県志摩郡大王町畔名（現：志摩市大王町畔名）は志摩半島東端の大王埼の南に位置しており、集落は太平洋に面した後背湿地を陸封した台地上に発達している。

畔名の海岸線は志摩半島一帯に広がるリアス式海岸の一部を形成しており、太平洋に面して約400mの砂浜が広がっており、その両端に磯が発達している。海底には海食崖・海食洞・海食台・岩礁・転石、さらに護岸保護のために敷設したテトラポットが磯から連なっており、潜水漁の漁場となっている。漁場として利用されている水深は約10尋（15m）である。畔名の潮流は、黒潮の季節的流向変化の影響がない限りほとんど一定している。伊勢湾からの内湾流と黒潮の分岐流とが畔名沖で合流するため、潮は常に北回りに流れている。

調査対象集団 調査対象は当時の畔名漁業協同組合所属の素潜り海女集団で、調査を開始した1982（昭和57）年当時の構成員は22名で、漁場までの移動手段と操業形態との差異により、カチド10名・フナド11名・チナ1名に分類されていた。

当該集団構成員の年齢は47歳から66歳までで、年齢差は19歳、平均年齢は54.4歳であった。現在では、当該集団構とカチド4人が潜水漁に従事している。

漁獲対象物 主要な漁獲対象物はアワビ・サザエ・トコブシなどの貝類で、他にワカメ・アラメ・テングサなどの海藻類やイセエビ・タコ・ウニなども採捕される。

最も商品価値が高いのがアワビで、畔名ではアワビの足裏の色の差異により、クロアワビはクロ、マダカアワビやメカイアワビはシロと呼ばれている。トコブシはフク、バテイラはマメと呼ばれている。

調査方法 1982年の漁期に、各海女の潜水漁について、生態人類学的な参与観察とそれぞれの漁獲量および漁獲額の確認を行い、それらに関する聞き書き調査を実施した。

3. 潜水採集活動

潜水能力 潜水能力は、いかに深くまで潜れるか、いかに長時間潜れるか（息こらえできるか）、いかに多くの回数を潜れるかに集約される。言い換えると、通常、午前と午後に各2時間設定される作業時間内にいかに滞底時間をいかに多くできるかということである。このことは漁獲機会を増加させることになり、漁獲量・漁獲額の増加にもつながっていく。

潜水能力は身体的な条件を除けば、概して若年齢層のほうが優れている。潜水・海底探索・浮上を海面で繰り返すことは、疲労を蓄積させていくことだけでなく、身体を冷やすことにもなるため、高齢者にとっては過酷な活動ということになる。

なお、高齢者は潜水時間や潜水深度の低下に加えて、視力の低下も大きな負担である。海面で陸上の目標物を使って漁場を確認するヤマアテや海底での探索活動においても、視力が低下すると正確な視覚情報が得られなくなり、漁の多寡はもとより海難事故に結びつく危惧がある。

漁場に関する知識 カチド・フナド・チナという集団の漁場利用慣行は、互いに競合しないことが意識されたものになっている。たまたま競合した場合は、互いに牽制し合うなどして、現場での調整が図られる。

カチドは潜水漁に初心者やフナドから転じた高齢者から構成されており、海女小屋から磯におり、浮き輪に上体をあずけながらバタアシで目的の漁場にまで移動して潜水漁を行う。漁場やアジロについての知識が豊富な高齢者の様子をみながら若い海女たちはアジロに関する情報を増やしていくことになる。

フナドは里浜と池田浜にそれぞれある海女小屋（現在は里浜のみ）に所属する海女たちが一艘の漁船に数名ずつ乗り合わせて漁場まで移動し、そのまま洋上に漁船を待機させておき、復路も船で移動するため、カチドよりも漁場の選択の幅は広がる。そのことは多くのアジロを知る海女にとっては好都合なことになるが、アジロの情報をもたない海女にとっては漁場を探す手間がかかることになる。そのため、アジロをあまり持たないフナドは他のフナドとツレで潜ることで新しいアジロを覚えていくことが多い。

肉親を介助者にして単独で船を利用するチナの場合は、介助者が釣り漁などに従事しており海底地形を熟知している場合が多く、トマエと呼ばれる介助者任せで漁場が選択される。そのため、都合でフナドの船にチナが乗り合わせるとアジロが見つからないということも起こる。

採捕技術 採捕技術は次の三点に大別される。一つはサザエのような素手で直接採捕できる対象物に対する技術。他の二つは岩などにはりついているアワビやトコブシをイソノミなどの道具で剥がし採る技術である。とくにアワビの場合は太陽光が届くところにはりついているシロと、暗部を好むクロとでは全く異なる採捕技術が必要となる。

シロの場合は肉眼で確認できる場所にはりついていることが多いので、アワビの貝殻の薄い方からイ

ソノミを差し入れ、貝殻の厚い部分を梃子の支点となるように剥がせばよい。それに対してクロの場合は、肉眼で探せない場所にいることが多いので、岩陰などに手を差し入れ、手の感触でアワビを探し、掌に添えたソノミをアワビの貝殻にあてがい、掌そのものや腕を梃子にして剥がし採るというものである。貝殻や肉を傷めずに採捕するためにはソノミを用いるのとは全く異なる身体のコントロールや冷静な判断力が求められるのである。

漁獲量・漁獲額の背景 先述した、個々の体力と漁場に関する知識に加えて、これらの三種類の採捕技術を駆使することができれば、すべての漁獲対象物を採捕することが可能になるのである。

そのうえで、漁獲対象物をいかに傷めずに採捕するかという、採捕に関する技能に熟練度の差異が漁獲量や漁獲額に反映されてくることになる。

4. 潜水漁と加齢（表1・表2参照）

集団における加齢と漁獲額 1982年度に実施した当該海女集団の日平均漁獲額に注目すると22名の日平均漁獲額は4,095.9円である。

操業形態別では、カチド・フナド・チナのそれぞれの日平均漁獲額は2,191.3円・5,286.9円・10,040円となる。フナドの場合はこの額から必要経費としての油代を引くことになる。チナの場合はトマエと二人で操業しているため、割りかえすと5,020円ということになり、さらに必要経費としての油代もひくことになる。その結果、フナドとチナの日平均漁獲額の差異はほとんどないことになる。これに対して、カチドの日平均漁獲額は低額であるが、カチドたちは必要経費を意識せずに気儘に採捕活動ができることを評価している。

また、この集団内では年齢差に応じた漁獲額の差異がみられる。49歳までの日平均漁獲額は2,371円、50歳から54歳までは4,896円、55歳から59歳までは4,888円、60歳から64歳までは2,449円、65歳以上は2,076円で操業形態の差異にかかわらず、50歳代を頂点とし、40歳代と60歳代がほぼ同額という結果になっている。

各海女が漁獲額についてあまり口にしない背景には、各海女が自身の主要漁獲物を明確に意識しており、それぞれがアジロを持っていることに起因する採捕成果に対する自負があるのだという。自分の畑に収穫に行くような感覚だという。

個人における加齢と漁獲額 当該海女集団に所属していたF05は昭和3年生まれで、3人目の子供を出産し、第三子が乳離れしてから、潜水漁を開始している。

彼女が潜水漁をやめようとした平成8年までの37年間のアワビの生涯総漁獲量は18,495.51kg、サザエは7,883.05kgでアワビを主要漁獲物としてきた様子がよくわかる。

彼女が最も盛んにアワビを採捕した昭和62年の1,281.49kgを頂点として昭和56年の561.5kgから平成6年の723.8kgまでの14年間は、常に年間500kg以上のアワビを採捕していたことになるが、この期間の彼女の年齢は53歳から66歳である。

また、彼女が日平均漁獲額で5万円以上になるのは60歳から66歳までの間で、64歳の時には日平均漁獲額が66,414円となっている。F05の場合、潜水漁の熟練状態というべき状態になったのは50歳代からで、そのピークとなったのが64歳ということになるようである。

なお、今年度の調査により、海女を引退することを決めた翌年以後も、「気が向いたら」イソバタに行っていたことが確認され、引退後の平成9年と10年のデータを得ることができた。それによると、操業日数は32日間と34日間と減少しているが、日平均漁獲額はそれぞれ28,016円、24,977円で、引退を決めた年までの生涯日平均漁獲額を上まわる漁獲額を得ており、平成9年は主にサザエを、10年は主

にアワビを採捕していたことが確認できた。

潜水漁における加齢と熟練 集団の横断的な分析によると、潜水漁において熟練期という年代がある一方で、潜水漁従事期間をとおして、一定した漁獲額を確保するための個々の戦略を自在に案出できる生産活動であることがうかがえる。こうした現実的な裏付けがあるからこそ、各海女がそれぞれの嗜好を反映した操業形態や漁具を選択できるのである。

また、集団内の個人を対象とした縦断的な分析によると、加齢に応じて衰える体力に対して、増大していくアジロについての情報、経験の蓄積によって柔軟な対応が可能になる採捕技能との組み合わせにより潜水漁従事者としての熟練状態が、社会一般で通例とされる定年年齢よりも高齢時に現出していることが確認できた。

潜水漁存立の背景 横断的な分析では、集団内において50歳代に日平均漁獲額のピークがあるものの、40歳代と60歳代の日平均漁獲額がほぼ同額であることが確認できた。

縦断的な分析では、加齢にともない日平均漁獲額が上昇しており、日平均漁獲額は60歳代にピークを迎えており、加齢によって蓄積される経験の蓄積が潜水漁における熟練状態を現出させる要素の一つとなっていることをうかがわせる結果が得られた。

ただし、後者の分析は一事例のみの分析をもとにした結果であるため、この傾向がどの程度普遍性をもつものかは断定できない。今後の課題として、当該海女のライフヒストリーの収集を続け、当該海女の潜水漁に対する意識の形成や変化について、さらに明らかにしていきたい。

なお、今年度の調査によると、志摩地方全域で昭和60年代からアワビの漁獲量が減少していると言われており、潜水漁を含む漁業従事者間の資源管理に対する意識にも変化が表れてきているようである。潜水漁の存立については、漁場などの自然環境や漁業協同組合や市場などの社会環境についても考慮していかなければならない。

おわりに - 日本における潜水漁の行方 -

現在、潜水漁に従事している女性の多くは高齢者で、家業と組み合わせることで潜水漁を継続している。潜水漁に従事することになった事由の多くは、子供を育てながら家事（家業）を行うために選択したという。また、配偶者との死別や離別などの経済的な事由から選択している例もみられる。

現在、潜水漁に従事している女性たちには潜水漁を選択する必然性があり、当該地域内の後継者世代には潜水漁を選択する必然性がないというのが、現在の海女の動態の背景であろう。本報告の対象地である畔名では、海女の息子が2名、潜水漁に従事している。彼らは漁業者の年周期活動の一環として、夏季の選択肢として潜水漁を選択している。

志摩地方全域においても、同様な傾向が進展していくことが予測される。

参考文献：拙稿 1987「アワビ採具からみた潜水採集活動—三重県志摩郡大王町畔名の事例」日本民具学会編『海と民具』（日本民具学会論集 1）雄山閣

拙稿 2002「潜水漁の諸相—加齢と熟練—」香月洋一郎・野本寛一編『民具と民俗』（講座日本の民俗学 9）雄山閣

表1 三重県志摩郡大王町畔名の海女集団の個人別日平均漁獲額および日平均漁獲量(昭和57年度)[※1]

団体識別番号 ※2	年齢 歳	日平均漁獲額 円 ※3	日平均漁獲量(単位g/含有率%) ※4							イノミの所有数	
			アワビ(クロアワビ)含有率/傷アワビ含有率	サザエ	クラメ(ゴブシ)	ホラ	マメ(ハテイ)	他	イノミ	イノミ	コノミ
K08	60	1,243	117.3 (94.7/30.5)	136.4	881.5	0.0	107.4	3	—		
K04	49	1,375	204.4 (84.7/37.6)	178.3	800.7	0.0	191.3	2	—		
K09	60	1,559	225.7 (77.2/26.2)	346.7	735.5	0.0	250.6	2	—		
K05	51	1,719	241.3 (64.2/31.7)	216.7	1,158.0	29.6	73.5	2	—		
K03	49	1,726	654.8 (86.8/30.6)	329.1	645.6	0.0	90.7	2	—		
K10	66	2,076	259.3 (94.2/41.9)	152.9	1,480.0	0.0	184.3	2	—		
K02	47	2,102	645.0 (86.9/30.2)	340.5	1,035.1	1.4	52.7	2	—		
K07	58	2,280	832.5 (92.3/36.0)	275.8	1,062.9	1.6	31.4	3	—		
F04	53	2,903	695.7 (27.6/12.1)	2,029.3	147.6	30.5	0.0	2	—		
F11	62	3,371	1,384.1 (83.7/26.8)	1,709.4	206.5	37.1	34.1	3	2		
K06	52	3,554	3,247.9 (97.4/18.0)	91.2	140.1	0.0	74.5	3	3		
F10	62	3,623	1,041.9 (41.2/16.5)	2,221.0	266.1	67.2	26.9	3	—		
F09	59	4,028	1,208.3 (38.8/12.2)	2,569.4	210.6	40.0	0.0	2	—		
K01	47	4,279	2,492.6 (72.8/26.7)	820.5	939.8	26.1	65.9	3	1		
F03	53	5,232	1,158.5 (59.8/16.9)	3,701.1	245.3	69.5	65.3	3	2		
F08	56	5,249	771.2 (33.7/14.3)	4,270.0	137.7	70.6	0.0	2	—		
F01	50	5,512	1,052.4 (52.9/18.0)	3,978.8	394.1	78.8	8.2	3	—		
F07	55	5,579	1,329.4 (34.8/17.1)	4,123.7	60.5	38.4	0.0	2	—		
F02	50	7,164	1,159.6 (40.6/15.8)	5,768.6	110.6	107.5	18.1	3	—		
F06	55	7,306	1,612.5 (32.7/12.2)	5,536.5	89.1	41.7	0.0	1	—		
F05	54	8,189	5,954.0 (60.6/15.1)	2,079.8	73.7	81.8	0.0	3	6		
C01	48	10,040	4,900.6 (45.0/7.6)	5,076.7	63.1	0.0	0.0	4	1		

※1 昭和57年度に畔名漁業協同組合が各海女に対して発行した「精算通知書」の控えおよび同年度に実施した参与観察をもとにして作
 ※2 個体識別番号は参与観察時に各小集団ごとに若齢順につけたものである。記号はK(カチド)・F(フナド)・C(チナ)を表している
 ※3 漁獲額が少ない者から順次表示した
 ※4 クロアワビ・傷アワビの含有率とは、アワビの総漁獲量にそれぞれが含まれる割合

表2 素潜り潜水漁業者の現役期間の漁獲量および漁獲額(※1)

年度	年齢	アワビ漁獲量(単位g/含有率%) ※2				サザエ 漁獲量	ウニ 漁獲量	ホウ 漁獲量	フクラメ (トコシ) 漁獲量	海藻類 漁獲量 ※3	ワカメジキ類 他漁獲量 ※4	年間漁獲額 ※5	フナトマエ (船頭)代 他経費	操業 日数 日	日平均 漁獲額 ※6	備考 ※7	
		総漁獲量	クロアワビ/含有率	備アワビ/含有率	不明												
S.35	32歳	2.44	不明	不明	不明	221.4	37.1	0.0	4.2	不明	11,200	60,273	0	11	5,479	サカナ0.975, タコ エビ0.45, サカナ, タコ, (貝殻) タコ, エビ タコ5.8, エビ, カレイ タコ 夏本92	
36	33	13.52	0.46	3.4	不明	472.35	0.0	2.0	5.58	6.4	46,290	92,413	500	29	3,169		
37	34	17.41	不明	不明	不明	598.0	216.8	0.0	10.1	不明	不明	129,647	500	50	2,583		
38	35	92.8	8.2	8.8	不明	577.8	219.4	0.0	116.15	127.5	48,475	201,330	1,000	83	2,414		
39	36	166.8	108.35	65.0	39.95	968.9	320.1	0.0	48.75	105.0	10,500	305,500	4,650	96	3,134		
40	37	254.85	215.5	84.6	41.63	760.15	164.4	0.0	40.4	120.85	10,035	380,700	不明	95	4,007		
41	38	499.1	288.38	57.8	124.4	327.75	105.3	0.0	8.4	158.1	46,100	540,000	不明	79	6,835		
42	39	666.35	349.55	52.5	107.4	362.0	79.3	0.0	15.6	243.9	57,621	661,370	36,600	107	5,839		
43	40	600.55	203.05	33.8	47.85	268.31	70.5	0.0	12.85	139.6	12,800	777,460	18,950	112	6,772		
44	41	388.9	220.0	56.6	65.4	284.0	184.4	0.0	13.8	146.0	140,200	672,180	28,700	111	5,797		
45	42	378.95	183.75	48.5	108.1	187.6	137.8	0.0	9.15	213.95	120,300	715,260	4,600	108	6,580		
46	43	318.45	151.35	47.5	90.4	175.89	78.0	0.0	11.0	156.0	66,890	682,600	37,100	99	6,520		
47	44	334.05	188.45	56.4	107.8	74.6	83.9	0.0	9.05	104.6	128,600	795,765	4,000	88	8,997		
48	45	370.91	200.3	54.0	124.6	122.45	115.9	0.0	11.9	100.7	119,339	1,131,279	9,000	113	9,932		
49	46	317.7	186.0	58.5	135.25	75.6	63.0	0.0	20.8	140.0	56,200	1,196,285	24,200	94	12,469		
50	47	334.68	227.25	67.9	112.35	79.3	20.1	0.0	15.45	154.0	94,100	1,323,920	20,700	92	14,165		
51	48	380.3	231.5	60.9	136.55	293.2	13.2	0.0	20.9	194.4	201,110	1,510,000	16,000	90	16,600		
52	49	393.02	258.9	65.9	145.27	52.45	48.4	0.0	17.75	173.5	144,779	1,721,400	不明	92	18,711		
53	50	281.61	178.85	63.5	54.9	481.45	41.3	0.0	21.25	56.0	55,100	1,553,300	不明	85	18,274		
54	51	449.25	266.7	59.4	180.1	241.55	32.8	1.5	34.9	42.2	48,700	2,047,000	4,000	108	18,917		
55	52	379.55	274.25	72.3	64.95	123.6	12.85	6.1	24.8	84.2	165,570	2,265,500	不明	85	26,653		
56	53	561.5	313.5	55.8	72.5	142.35	0.0	12.1	17.8	153.0	202,602	2,578,400	11,000	113	22,720		
57	54	576.92	293.4	50.9	96.85	206.5	0.0	8.0	6.4	151.8	220,941	2,510,491	不明	99	25,358		
58	55	848.75	525.3	61.9	87.5	350.5	5.55	4.1	6.9	236.3	173,469	3,112,687	30,000	111	27,772		
59	56	670.06	410.2	61.2	85.76	7.5	14.1	0.0	7.65	不明	53,000	2,851,775	不明	99	28,806		
60	57	771.3	313.35	40.9	52.85	5.3	21.5	0.0	5.9	173.6	151,028	2,935,439	不明	111	26,445		
61	58	817.35	246.95	30.2	72.7	42.0	0.6	7.7	7.55	135.5	233,000	3,286,465	15,900	98	33,373		
62	59	1,281.49	212.65	16.6	88.2	119.5	0.0	15.5	0.5	35.0	81,480	4,805,400	113,800	119	39,425		
63	60	1,144.5	84.85	7.4	108.95	9.5	13.7	0.0	9.8	0.35	289.8	54,800	4,781,951	128,100	92	50,585	
H.1	61	971.7	95.5	9.8	62.1	8.15	0.0	6.0	0.25	82.4	70,000	4,514,278	24,800	94	47,760		
2	62	927.2	143.1	15.4	56.35	6.1	24.75	1.65	8.2	0.3	80.25	97,760	5,964,863	280,800	100	56,841	
3	63	835.75	74.4	8.9	49.8	6.0	48.55	0.1	19.7	1.25	172.1	184,500	5,345,975	217,300	96	53,424	
4	64	695.7	57.7	8.2	34.7	5.0	25.85	0.0	8.5	0.0	80.0	87,000	4,505,237	55,500	67	66,414	
5	65	578.45	54.45	9.4	30.15	5.2	29.6	0.85	12.7	1.15	不明	52,271	3,911,963	18,000	80	48,675	
6	66	723.8	54.55	7.5	35.1	4.9	138.1	46.95	37.6	0.3	不明	77,704	4,791,631	不明	93	51,523	
7	67	335.55	24.85	7.4	18.25	5.4	46.65	85.55	49.6	1.7	30.0	29,000	2,911,112	16,500	84	34,460	
8	68	114.4	10.4	9.1	2.05	1.8	241.2	0.55	17.3	0.35	不明	69,598	979,518	0	44	22,262	
9	69	130.3	12.2	9.2	2.40	1.8	139.3	17.25	12.0	0.00	0.00	0	896,530	0	32	28,016	
10	70	228.8	119.0	52.0	4.60	2.0	18.3	16.60	2.0	0.00	0.00	0	849,247	0	34	24,997	
合計	※8	18,854.61	6,787.14	※33.9	2,647.71	※7.13	8,040.65	2,255.60	240.0	531.13	4,086.85	3,422,062	80,296,144	1,122,200	3,393	※25,091	

※1 三重県志摩郡大王町群名[現志摩市大王町群名]在住の海女浜口律子(F05)が潜水漁を開始した年から所属していた海女小屋を離脱した年までの、個人記録および群名漁業協同組合が定期的に個人宛に発行する「精算通知書」をもとにして作成した。記録が確認できない項目については、表中に不明と表記した。漁獲量の単位はkg、漁獲額の単位は円、操業日数の単位は日。平成9・10年分は海女小屋離脱後のデータ。

※2 クロアワビ・備アワビの含有率とは、アワビの総漁獲量にそれぞれが含まれる割合
 ※3・4 磯の口開け前に行われるワカメ・ヒジキ、漁期半ばで行われるテングサ、磯閉めころに行われるアサメの漁獲量と漁獲額である。これらの採取作業は4名の海女の共同作業で行われるため、海藻ごとに表記が異なり、各漁獲量・漁獲額の記録の欠落がみられるため可能な限り併記した

※5 各漁獲物に対して群名漁業協同組合が算出した金額に、当人が控えていた「ワカメヒジキ類他漁獲額」およびナイショウリ(個人への販売)の金額を合算した額。ほぼこの10%が税金となった

※6 (年間漁獲額-フナトマエ代金他経費)÷操業日数、で算出した。経費の大半は船頭に対する規定外の謝礼金。小数点以下は四捨五入

※7 個人記録中にみられた家業や自身の体調に関する特記事項とその他の漁獲物の漁獲量(単位kg)を挙げた。()で示したものは本人からの聞き書きによる

※8 クロアワビ・備アワビの含有率および日平均漁獲額の欄は生涯平均値